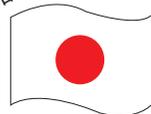


# かみがね

祝祭日には国旗を掲げましょう



5月3日 憲法記念日  
5月4日 みどりの日  
5月5日 こどもの日  
7月20日 海の日

第169号 (平成27年4月20日)



## 玉諸神社「ぼんぼこさん」

神宮大麻頒布・神宮祭儀	..... P2~3	神宮初参り	..... P12
一都七県神社庁	..... P4~5	外郭団体	..... P13
神道政治連盟	..... P5~6	支部だより	..... P14
まんが古事記(神武天皇)	..... P7~10	県内神社祭典	..... P15
神社庁祭典	..... P11	今後の予定	..... P16

### 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
- 一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

## 神宮大麻頒布終了祭

### 頒布春季推進会議報告

南都留支部 支部長 渡 邊 主 計

去る三月五日、平成二十六年

平成二十五年の両正宮と両第一

度の神宮大麻頒布終了祭が伊勢

別宮の遷御に続き、残る十二別

の神宮で斎行された。好天に恵

宮の遷御の儀が厳肅に斎行され

まれ根津庁長、飯田参事と共に

三月十五日の風宮を以て完了と

先ず外宮、内宮の御垣内参拝を

なるとの報告があつた。神宮大

済ませ、奉告祭は午前十時より

麻、曆の頒布が様々な要因から

神楽殿にて斎行、本社本庁役職

厳しい状況にあることを指摘さ

員や全国都道府県神社庁長など

れた。北白川統理は、昨年七月

が参列した。鷹司大宮司以下の

から新たな施策として「三ヶ年

神宮神職の奉仕により修祓、献

継続神宮大麻都市頒布向上計

饌ののち高城少宮司が祝詞を奏

画」を推進していることに触れ、

上した。小串神社本庁副総長の

社会情勢を踏まえつつさらなる

玉串奉奠に合わせて参列者も拜

施策推進、啓発活動に取り組み

礼。祭員退下後は御神楽奉納が

との挨拶があつた。議事に入り、

あり、「倭舞」「人長舞」「萬代

渡邊神宮頒布部長より平成二十

舞」が奉奏された。祭典後、午

六年度の神宮大麻曆の交付数と

後十二時半より、神宮会館大講

頒布数の報告があり、神宮大麻

堂で平成二十六年度神宮大麻曆

頒布数は前年度比六万三十四体

頒布春季推進会議が開催され

減の八百六十八万二千六百七十

た。鷹司大宮司の挨拶では、第

九体、曆は前年度比千三百九十



と残念な結果になつたが、新施策に期待をよせた。次に稲神社本庁奉賛部長が、「三ヶ年継続都市頒布向上計画」や各神社庁の活動概要などの説明があつた。活動報告では、新潟、北海道、石川、鹿児島、福井各神社庁支部代表より活発な取組み、努力の成果等発表があり質疑応答後意義ある会が閉会した。

# 神宮大麻曆頒布向上計画研修会

甲府支部 支部長 小 山 利 行

神宮大麻都市頒布向上計画の第一回研修会が、去る三月五日、六日の両日伊勢市神宮会館を会場に開催され、本県より甲府支部長小山と同副支部秋山が全国より参加した他六十二名と共に受講した。都市頒布向上計画は、昨年より実施され三ヶ年継続の事業である。以前実施された「指定県制度」や「モデル支部制度」の成果をふまえ、各県での実践事例の報告や意見交換、現状における問題点の報告等がなされた。講義の中では、頒布

大麻と社頭大麻の差や、神棚奉斎家庭の減少率の分析、神宮大麻頒布の歴史等が示された。この中で明治五年神宮大麻御霊奉行式の祝詞にある様に、明治天皇の詔に沿い奉る頒布活動は、当初全国神職会の組織が充実に

た為でもあるが実現するのは昭和の始頃からである事が話された。各県からの実践例報告では、東京都より駅の広告スクリーンに大麻奉斎を呼びかけた例や新潟県より新興住宅地を氏子に持つ二社を指定して折込チラシや幟を利用、十二月中に土日曜日を二度活用して社頭神棚無料配布に合わせ、百六十体以上の大麻社頭頒布を実現した例や岡山県のように限定された地域に配布するタウンメールのチラシに、神棚無料引換券を付け社頭頒布を実践した例が挙げられた。他にも総代会を通じての頒布例や総代に頼らず神職個人で千七百体の頒布を実践している例等が示され、本県の参考となった。モデル支部制度から十年が経過し、毎年各県五百字の小型神

棚を受け取っている。四十七都道府県であるし毎年二万四千字となる。十年間では二十五万字にならないとする小型神棚が神宮より配布されている中、制度発足以降、三十万體以上の減体の事実は各神職の更なる使命感の向上と世帯数増の中でのその現実の中、新規奉斎家庭（世帯）の掘り起しに向けた方法の工夫に、知恵を寄せねばと感じた次第である。



平成二十六年度大麻並曆頒布実績表  
平成二十七年一月

支 部	小 大 麻		中 大 麻		大 大 麻		大 麻 合 計		郷 土 曆	
	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減
甲 府 支 部	17,196	- 44	1,210	- 227	176	- 20	18,582	- 291	500	0
東 山 梨 支 部	13,400	- 65	351	+ 4	160	- 16	13,911	- 77	350	- 30
東 八 代 支 部	11,390	+ 140	730	+ 310	100	+ 5	12,220	+ 455	445	0
峡 南 支 部	9,199	- 73	556	- 13	242	- 9	9,997	- 95	1,200	0
峡 中 支 部	15,986	- 166	858	+ 40	56	+ 6	16,900	- 120	650	- 10
峡 北 支 部	11,831	- 136	459	+ 113	39	- 10	12,329	- 33	1,270	+ 20
南 都 留 支 部	18,064	+ 33	3,807	+ 68	883	+ 23	22,754	+ 124	7,850	0
北 都 留 支 部	3,410	- 160	4,790	- 60	221	+ 16	8,421	- 204	1,810	0
神 社 庁 扱	1,300	- 1		0		0	1,300	- 1		
合 計	101,776	- 472	12,761	+ 235	1,877	- 5	116,414	- 242	14,075	- 20

## 第六十二回神宮式年遷宮

## 別宮遷御の儀 奉仕

武田神社 権禰宜 乙 黒 洋

神宮より神宮式年遷宮月讀宮以下別宮宮掌補の割り当てが当県にあり、去る二月二十八日に、豊受大神宮別宮月夜見宮遷御の儀を奉仕致して参りました。

前日の二月二十七日、外宮齋館に赴き、岩手・愛知・香川・熊本各県よりの奉仕者とともに直ちに潔斎・改服を済ませ、神宮小堀邦夫禰宜より第六十二回神宮式年遷宮宮掌補の辞令を交付され、その後、宿営長より説明がありました。

午後三時より川原大祓奉仕並びに翌日の遷御の儀習礼となる為、宮掌補の装束である衣冠そして掛明衣を着け、別宮月夜見宮に移動。定刻に川原大祓の後、習礼を致しました。

翌二十八日は外宮宮域内のご案内を戴き、またせんぐう館を拝観し、神宮式年遷宮の歴史・意義などを再確認させて戴く機会を頂戴致しました。

愈々夕刻を迎え、前日同様装束を着け、月夜見宮に移動し祭儀となりました。午後八時、鶏

## 一都七県神社庁連合会総会

北都留支部 支部長 渡 邊 學

鳴三声が響き、鷹司尚武大宮司が出御を三度奉唱の後、遷御となり、私は渡御御列の前陣、執物「御弓」の捧持所役として奉仕をさせて戴きました。松明の炎のみが照らす浄暗が荘重な空間を描き出し、静寂さが凜とした清々しい雰囲気醸し出す中、渡御御列がゆっくりと進み、月夜見尊様、月夜見尊荒御魂様に新宮へとお遷り戴きました。

奉仕後齋館に戻り、共に奉仕した宮掌補と感慨無量に浸る中、ふと脳裏に浮かんたのは、明治天皇御製「いにしへの姿のままにあらためぬ 神のやしろぞたふとかりける」でございませう。

第六十二回神宮式年遷宮の遷御の儀に奉仕させて戴くという何事にも代え難い機会を得て、此の度の奉仕の折々、己の眼と耳で捉え肌で感じたものを、次期第六十三回神宮式年遷宮の奉賛活動に際し、資していかなければならないとの思いを強く致した次第であります。

去る二月二十四日、一都七県神社庁連合会総会が群馬県伊香保温泉のホテルで開催され役員十六名が参加しました。総会は午後二時に開会し、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き地元棒名神社への代表参拝報告が根津山梨県神社庁長よりあった。つづいて当番県の群馬県神社庁奥澤庁長の挨拶、続いて来賓代表北白川道久神社本庁統理と鷹司尚武神宮大宮司と神道政治連盟吉田茂穂副会長と群馬県知事代理中村課長、中曽根弘文参議院議員の祝辞があった後に奥澤庁長が議長を務め議事進行し昨年開催された本庁定例評議員会に提出された決議案件等の報告があり、終戦七十年にあたり英霊を感謝と慰霊と追悼の心を次世代に伝えるさらなる啓発活動に努める旨を掲げた宣言を採択し、次年度当番県山梨県根津庁長が挨拶し聖寿万歳を奉唱し閉会となった。総会後には、四県の代表の意見発表が行われた。茨城県東氏は昨年斎

行した式年大祭の活動や事業について、千葉県は岡野氏が麻文化の継承について、栃木県小林氏は大麻頒布に関する広報活動について、神奈川県は志村氏が神話を主題とする教化活動についてそれぞれ紹介があった。夕刻には参加者交流親睦会があり、翌日群馬県護國神社正式参拝し新築された群馬県神社庁舎を見学し帰路についた。次年度は山梨が当番県で富士山の麓富士吉田市で開催される。信仰の山富士の麓より神社本庁設立七十年の節目の年日本の伝統文化の護持運動を発信出来たらと思



## 一都七県神政連本部長

### 幹事長・事務局長会議

神政連山梨県本部 幹事長 渡 邊 平 一 郎

三月三日、四日に当山梨県本部が当番県となり、富士吉田市のホテル鐘山苑に於いて一都七県神政連本部長、幹事長、事務局長会議が開催された。此の会議は、一年に一度、関東一都七県神政連協議会が主催し、持ち廻りで開催される。本年は山梨県本部が当番県であった為、昨年の群馬県での会議の後直ぐに準備に入った。今までの此の会議は、各県の本部長・幹事長・事務局長・当番県の神社庁長・理事役員、そして神政連が推薦する有村・山谷両大臣に出席を



お願いしていた。今回の当本部では、神政連の活動を知ってもらう、より懇親を深めてもらう為に、当県出身の神政連国会議員懇談会会員の衆参国会議員と、神政連山梨県地方議員懇談会の県会議員の諸先生方にも出席をお願いした。通常四十名から四十五名位での会議であるが今回の出席者は六十六名に及んだ。会議は、小尾副本部長の開会の辞に始まり神宮遥拝、国歌斉唱、宣言、綱領唱和と続き当番県の佐々木本部長・根津庁長の挨拶があり、長曾我部神政連会長・宮川典子衆議院議員・堀内詔子衆議院議員・皆川地方議員懇談会議長に祝辞を頂戴した。規約により佐々木本部長を議長に選出して議事に入った。湯澤局長により中央本部の活動報告、そして東京都本部に始まる一都七県の地方本部の活動報告があった。この報告の中で特に神奈川県報告の、福岡県遺族会により靖國神社A級戦犯分祀決



## 神政連時局講演会

神政連山梨県本部

副幹事長 萱 沼 孝 之

去る一月二十九日山梨県神社庁で神政連時局講演会が、神政連首席政策委員の田尾憲男先生を講師に開催された。

先ず昨年十月一日に「美しい日本の憲法をつくる会」が設立され、安倍内閣も発足、憲法改正に向け一致団結し、組織化を図ることと述べられた。

資料より戦後体制を形作る日本国憲法の成立、改正点と理由、最重要改正項など詳細に説明された。国政の現実との不一致、実態との歪みなど憲法の権威が低下するのみで押しつけ憲法から、我が国の歴史伝統に基づく国柄を現す自主憲法が必要である。

今、近隣二国が領土と歴史認識を巡り歴史戦を展開している我が国は、毅然とした戦略対応と国民の意識と結束が必要である。平成二十八年七月の参議院選に合わせた国民投票の実現を目指し、尚一層邁進しなければならぬ。

規約により佐々木本部長を議長に選出して議事に入った。湯澤局長により中央本部の活動報告、そして東京都本部に始まる一都七県の地方本部の活動報告があった。この報告の中で特に神奈川県報告の、福岡県遺族会により靖國神社A級戦犯分祀決

# 靖國神社参拝・築地散策旅行

神政連山梨県本部 副本部長 高 原 左 門

大東亜戦争が終結して七十年の歳月が流れ一応平和な時代と社会の中に生活が営まれて居りいつしか遠い昔の事の様に思われる今日この頃です。

大正、昭和の初期に生まれた人達は、戦時中の食糧不足、鉄と言ふ鉄類は殆ど取り上げられて武器に使われた、そして敗戦、困苦欠乏に耐え忍び乍ら生き抜いた人々皆新しい日本を夢見つつ今日この日を迎えた。

平成二十七年三月二十四日、靖國神社正式参拝が計画され、山梨県下二百十五名の参加者によって実施され、主催者の神道政治連盟として感謝し、更に喜びを得ました。

靖國神社には二四六万六千余柱の英霊が奉斎されて居り、遊就館には、その歴史を語る実物等々が拝観出来ます。

今年に改めて戦争、戦場の実録を知る事が出来、今後神道政治連盟は如何に在る可きかを覚えた次第です。

この日国會議員、赤池誠章氏



長崎幸太郎氏 宮川典子氏 堀内詔子氏 森屋宏氏 山谷えり子氏代理渡辺智彦氏の出席と、靖國神社徳川宮司の挨拶を頂き、有意義な正式参拝が行われた。

参拝後は築地散策と、すしざんまいにて昼食をすませ無事帰路についた。

# 神政連皇居勤労奉仕並びに第十三回時局対策連絡会議参加報告

北口本宮富士浅間神社 権禰宜 佐々木 宗 平

去る二月二十三日より二十七日の五日間、皇居と都内のホテルに於いて開催された神政連主催の皇居勤労奉仕並びに第十三回時局対策連絡会議に全国から集った三十七名の先輩方と共に参加してまいりました。

今回は皇居勤労奉仕が四日間の日程で組み込まれており、皇后陛下が御養蚕に用いられる桑の木の前で、二の丸庭園での除草作業等をさせて頂くことができました。奉仕中、普段は映像や写真でしか見る事のない皇居内の各所を実際に目にする事ができ、とても感慨深い心持ちの中奉仕に励みました。また畏れ多くも三日目には天皇・皇后両陛下、翌日には皇太子殿下より御会釈を賜る事が叶い、その時には筆舌に尽くし難く正に感慨無量といった心境でありました。

また、今年は大東亜戦争終結七十年を迎える年であり、それに伴い連絡会議ではその節目に相応しい主題を掲げた議義が神政連首席政策委員の田尾憲男

氏、神政連沖縄県本部幹事長・波上宮禰宜の大山晋吾氏、自由民主党政務調査会長・神政連国會議員懇談会事務局長の稲田朋美氏の三名の講師により展開されました。各先生方の講義はどれも熱く、心に訴えかけるような内容であり、時局問題への関心を益々に高める最良の機会となりました。

今回参加出来たことは生涯忘れられないことであるう貴重な経験となりました。これより先も時局問題に対する理解を深める為に、より一層の努力をして参りたいと思っております。

最後になりましたが、参加するに当たって御世話になりました全体的に御礼申し上げます。



# まんがが古事記

## 神武天皇(第四話)



「全国神社保育団体連合会」提供

問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一―二

神社本庁内

電話 ○三―三三三九―八〇二―

一冊 一二〇円



このお話の人物

金の鶏

大久米命

神武天皇 神倭伊波禮毘古命

弟宇迦斯

道臣命

兄宇迦斯

八咫鳥

※八咫鳥は三本足です

あらすじ

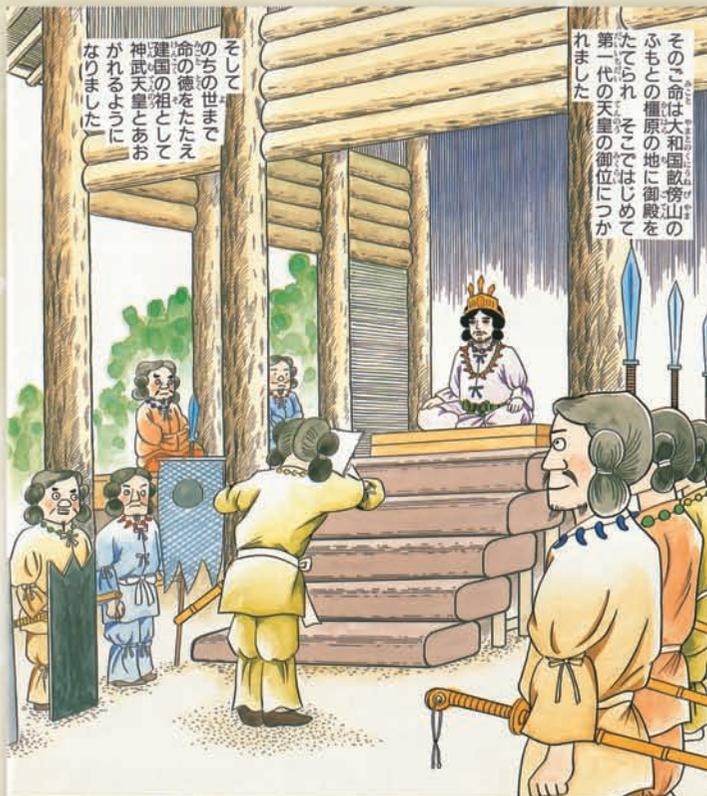
神倭伊波禮毘古命、後の神武天皇は、日向国の高千穂宮で葦原中国(日本)を治めていらつしやいました。

命は、この国をもっと平和で豊かにしようとして、多くの人々と御相談になったところ、東に向つて旅立たれることとなりました。

日向国から船で河内国に向われましたが、思わぬ妨害にあい、命たち一行は南へくだり紀州国から上陸することにしました。

そして熊野から大和国を目指された命の一行には、数々の危難が待ちうけていました。命は神々と多くの人々の協力をえて、大和国に向われるのでした。

お子さん、お孫さんと、神話の世界をお楽しみ下さい。





今から一千三百年ほど以前に取纏められた『古事記』、『日本書紀』は、日本でもっとも古い書物です。これらの書物には、日本の国土の誕生から、神々の系譜、そして国家がつくられ、平和に治められてきた様子が豊かな描写によってダイナミックに語り伝えられています。

この本の原典となった『古事記』は、天武天皇の命を受けて稗田阿礼ひえだのあれが暗誦した神代からの伝承を、和銅五年（七二二）に太安万侶おおのやすまろが取纏め、元明天皇に献ったものです。『古事記』は全部で三巻あり、そのうち上巻は神代巻とも呼ばれ、ここには自然を神格化した神、英雄神、私たちの祖先神にあたる神々をはじめ、多くの神々のお話が記されています。中巻、下巻には神武天皇から推古天皇までの歴代の天皇さまが日本の国を平和に治められてこられた様子を伝えています。

この本のお話は、第一代の天皇さまである神武天皇のお話です。天皇さまの御祖先は現

在伊勢の神宮にお祀りされている天照大御神で、その孫の瓊瓊杵尊にきまきみことが高天原よりこの葦原中国あしはらのなかつくにを治められるために、日向国に天降られました。神武天皇は瓊瓊杵尊から第四代にあたるお方です。

命は日向国から大和国に移られ、この豊葦原中国を豊かで平和な国にするため、国造りの御指導を人々になされました。そして大和国橿原かしばらの地に御殿をつくり、ここで第一代の天皇さまとして御即位になりました。

今日の日本の国の礎がここに築かれたわけです。後世、神武天皇を日本の建国の祖と仰ぎ、二月十一日には神武天皇の御偉業を称え、建国の古えを偲ぶ建国記念の行事が中央を始め、全国各地で盛大に執り行われます。

神武天皇は現在、奈良県の橿原神宮、宮崎県の宮崎神宮などでその御偉徳を仰いでお祀りされています。平成二年は神武天皇が橿原の地で御即位になられてから二千六百五十年目にあたります。



※次号より「うみさちやまさち」を掲載いたします。



あらすじ

日向の国に、海幸彦・山幸彦という兄弟がおりました。海幸彦は釣りを、山幸彦は狩りを毎日していました。あるとき、山幸彦はお兄さんの釣りばりをかりて、海に釣りにでかけていきました。

山でえものをとるようには、どうしてもうまくいきません。ついには魚に、お兄さんが大切にしていた釣りばりをとられてしまいました。

こまつた山幸彦は、綿津見神の宮殿にむかうの

### 神 殿 例 祭

山梨県神道青年会  
副会長 今 村 和 弘

山梨県神道青年会では、例年  
神殿例祭へ四名の祭員奉仕をし  
ております。私は今回献幣使随  
員として、ご奉仕致しました。

例祭当日の朝は八時に神社庁  
へ集合し、例祭準備をして習礼  
を行いました。神社庁でのご奉  
仕は久しぶりであり、私は献幣  
使随員は初めてでしたので、細  
かな確認と指導をしていただき  
ました。その後十時三十分より  
小佐野正史副庁長齋主により、  
平成二十七年神殿例祭が神社庁  
神殿に於いて、多くの県内神職  
総代参列の中滞りなく齋行され  
ました。



### 神 殿 祈 年 祭

南都留支部  
支部員 佐々木 宗 平



二月十三日金曜日、山梨県神  
社庁神殿に於きまして祈年祭が  
厳肅な雰囲気のもと齋行されま  
した。此度の奉仕は南都留支部  
によるものであります。

さて、新嘗祭が作物、殊に稲  
の収穫を神様に感謝する祭祀で  
あるのに対し、祈年祭はその年  
の五穀豊穰や産業の発展、また  
皇室や国家の繁栄等を祈る祭祀  
です。「としごひのまつり」と  
も呼ばれるこの祭祀は全国の神  
社はもとより神宮や宮中に於い  
ても齋行され、その歴史は七世  
紀後半の天武天皇の御代にまで

遡ることが出来る歴史の長い祭  
祀です。律令制の衰微や室町時  
代後期の戦乱により明治期に神  
祇官の復興がなされるまでの間  
に断絶があり、また政治の形や  
社会のあり方等の変化も相俟つ  
て当時の齋行形式と現代の形式  
ではかなり異なっております  
が、祭祀にて捧げる祈りに違い  
は無いということはとても大事  
なことでありましょう。

### 教 化 講 演 会

教化委員会  
委員長 古 屋 真 弘

二月十七日神社庁神殿祈年祭  
に引き続き、恒例の教化講演会。  
今年も、山梨県教育庁学術文化  
課 田中禎彦課長に講師をお願い  
し、「山梨県の歴史的建造物  
の特徴」と題した講演が行われ  
た。

田中課長は、文化財の中でも  
特に歴史的建造物について造詣



が深く、山梨県の重要文化財を  
建物からの視点で分析して頂  
き、全国の重要文化財の歴史を  
はじめ、その特徴について細か  
く解説をされた。

県内神社の重要文化財につい  
ても、山梨市の大井俣窪八幡神  
社、富士吉田市の北口本宮富士  
浅間神社、韮崎市の武田八幡宮、  
笛吹市の浅間神社などを例に解  
説して頂いた。

結びに、「いま、県内にある  
建築物の国宝は仏閣で二カ所で  
あるが、もし県内で次の国宝の  
指定があるとすれば、窪八幡神  
社ではないか」といった、心強  
いお話も伺うことができた。

## 神宮初参り

神宮初参りに参加して

武田神社 権禰宜

滝 口 純 一

正月恒例の山梨県神社庁主催による初参りが一月二十一日から二泊三日にて開催されました。山梨県神社庁根津庁長を始め関係者など二十七名が参加し、私も今回初めて参加させて頂きました。

今年の行程は、初日に神宮参拝。二日目は、奈良の石上神宮と春日大社の参拝。最終日は、京都の八坂神社の参拝でした。私は、神宮で参拝できることを何よりも望んでおり、式年遷宮でのお白石持ち行事以来の参拝で、高鳴る胸の鼓動を抑えられない気持ちで一杯でした。

初日は、震える寒さの中バスに乗り甲府を出発。途中、八ヶ岳パークングエリアにて各支部の方達と合流。バスは一気にお伊勢参りの雰囲気につつまれ一路伊勢へ。外宮に到着し、外宮御垣内参拝。お白石を見ているうちに、日本人が心のふるさととして神宮を崇拜しお守り

しているという気持ちは永遠に継続していく事に改めて感動。また新しい社殿は参拝者に清々しさを与え輝いていました。別

宮多賀宮を遙拝し、土宮と風宮を参拝。内宮に移動して参道を歩いてみると、平日にもかかわらず、参拝者の多さに驚きました。その後は内宮御垣内参拝。僅かな時間でおかけ横丁を散策し、夕方には宿泊先の戸田家に到着。宴会の席の後、就寝。

二日目、天候がくずれ雨に変わり、国宝を多数所有する石上神宮での正式参拝。場所を長生殿に移し、森権宮司の講話。午後からは春日大社で、第六十次式年造替に向けて準備が進む中での正式参拝。その多忙の中、丁寧な説明を頂いた藤岡神職、又花山院宮司からは皇室の思い出話等をして頂きました。後に一行は京都にむけて出発。夜は溪山閣に宿泊。

最終日、天候も回復し八坂神社に参拝後、祇園散策、先斗町春神での昼食後、甲府への帰路についた。多くの方に出会い感銘を受けた研修旅行でした。

平成二十七年神宮初参り

王法子神社 氏子

興 石 恵美子

平成二十五年十月の御遷宮から一年。二十六年秋から翌年春にかけて、十二所の別宮も竣工、遷宮祭が執り行われるという意義ある一月、初参りに参加する機会を得た。

外宮正式参拝の後、宮城で別宮多賀宮を遙拝。亀の形をした石橋を渡り、建築中の土宮を拝す。すぐ近くに風宮がある。新宮は完成していたが、今回、参拝はかなわずとても残念に思った。内宮は私の運んだお白石を探す楽しみがあった。白い石を踏めるのは代表の神社庁長の根津先生のみ。「あのあたりだな」と心ひそかに納得。

神楽殿では六人の巫女が緋色の長袴を引きずり舞楽に合わせ単純な動きながら舞う姿にひきこまれた。室内が薄暗かったせい。演出がうまいなと思った。

今日の宿は戸田家。嬉春亭。広い部屋でくつろげた。

二日目、きれいな鶏が出迎えてくれた石上神宮、正式参拝。重要文化財の門が圧倒的な存在感で我々を釘づけ。日本最古の

神社の一つ。国宝も多い等、森権宮司の説明詳しい。禊場を見ようと神社の裏手に回る。孟宗竹が寒空に青々としている。筍はたくさん生える。近所の人の楽しみという。石上神社は靈験あらたかと言うので神経痛が治るように、私は絵馬を奉納した。

春日大社の駐車場に藤岡神宮がお出迎え。参道を歩きながら石灯笼(約千基)について触れられ(春日灯笼というのはここにはない)と話された。第六十次式年造替ということで覆の間から眺められる大社はこの上なく美しかった。本殿の裏側の柱の色が「青丹よし」の丹の色だそう。御蓋山はご神体なので立ち入り禁止だが安全管理のため入っている。体格の立派な花山院宮司が両陛下をお迎えしたときのエピソードを話された。ゆっくりお茶をいただく時間もてた。

夜、上文司宮司が駆けつけ宴は一層盛り上がり、森越宮司のプロ顔負けの歌声で締めくくった。

三日目、八坂神社、四条通自由散策。新しい出会いがあり有益な旅行となった。



# 沖繩慰霊祭齋行

山梨県神道青年会 会長 深澤宜彦

山梨県神道青年会は創立六十五周年記念事業の一環として、沖繩甲斐の塔戦没者慰霊祭を齋行致しました。

二月十三日、沖繩県甲斐の塔慰霊祭齋行にあたり山梨縣護國神社において奉告参拝をし、二月十八日～二十日の三日間に亘り、藤原神青会長を始め計十三名が沖繩へ向いました。

一日目、沖繩に到着後、沖繩県護國神社にて次いで波上宮にて正式参拝を行いました。その後沖繩甲斐の塔へ向い清掃奉仕、次いで山雨の塔にて清掃奉仕、参拝を行いホテルに戻りました。夜は、沖繩県神道青年会との懇親会を行い、懇親を深めました。

二日目、まず山雨の塔へ向い参拝、次いで午前十時より甲斐の塔慰霊祭を齋行致しました。齋主遠藤事業委員長が祭詞を奏上し、恙無く御霊をお慰めし厳肅の中に祭典を行うことが出来、その後、那覇市内に会場を移して直会を行いました。慰霊祭と直会には、沖繩県神社庁

長・波上宮司波慶次馨様、沖繩県護國神社宮司加治順人様、沖繩山梨県人会会長山本永雄様を始め県人会の方のご参加を頂き、慰霊祭には沖繩県神道青年会会長吉田久賀様の参列を頂きました。直会の席では懇親を深めることができ有意義な時間になりました。

## 全国女子神職協議会

### 関東地区研修会のお当番を務めて

山梨県女子神職会 会長 津金八千代

神様の大きなお見守りの中で、前日の浄めの雨に続き当日は雲一つ無い清々しい晴天の下、全国女子神職協議会関東地区研修会が開催されました。

今回、山梨が当番を務めさせて頂く事となり、研修の場として霊峰富士が従える富士吉田市を選び、自然を神と見て、恐れ崇めて敬って参りました事を祈りに変え、感謝と鎮めの日々が今日まで受け継がれて来た富士を、一

三日目、波照間島に到着後先ず、学童慰霊碑に献花を行いました。その後、聖寿奉祝碑にて清掃奉仕を行い、碑の前にて聖寿万歳と国歌「君が代」斉唱を行いました。

今回の慰霊祭において、祈願を続けることにより日本の恒久平和を祈ることが我々の使命であることを改めて自覚し、次世代に語り伝え継ぎ、日々の奉仕に繋がればと感じたところであります。

この信仰の例として今回色々な方向から学ばせて戴きました事を感謝申し上げます。

さて、研修では最初に北口本宮富士浅間神社に会員で正式参拝をさせて頂き、宮司様より「富士山信仰と御師との関係について」の御講義を受けました。その後、富士ハイランドリゾートに場を移し、開講式では山梨県神社庁長根津泰昇様ご名代、山梨県神社庁副庁長小佐野正史様を始め、山梨県神社庁南

都留支部支部長渡邊主計様並びに、北口本宮富士浅間神社宮司上文司厚様、全国女子神職協議会から会長物部裕子様ご名代、副会長長田部裕子様のご臨席を賜りました。講演では、山梨英和大学、石田千尋教授に依る「古典文学と彫刻、絵画から読み解く富士山信仰」が行われました。そして閉講式では、来年の当番県神奈川県女子神職会会長中村紀美子様のご挨拶を戴き散会となりました。

日本一大きな御神体の懐に抱かれて、神様と皆様を繋ぐお役目を、女子神職として更に高める為の豊かな時間を戴きました事から、日々の神明奉仕に益々懸命に務めて参ります。

あらためまして、ご関係者各位の支えとご協力の基、無事に研修会催行させて頂き戴きました事に心から御礼申し上げます。



# 支部だより

## 峡南支部

### 春の神職氏子合同研修

支部長 市川行治

峡南支部は、例年三月初旬に神職・氏子の合同研修を行っています。

今年三月七日(土)に鶴岡八幡宮の正式参拝と三崎漁港での鮪尽くしの昼食・戦艦三笠の見学を計画し募集した所、各宮司の熱心な呼びかけに応じ、神職六人を含め、総数六十五人の参加を頂き大型バス二台で実施しました。

春先の天候は変わり易く、当日は冬に逆戻りしたような寒い一日で、時折細かい雨が降るあいにくの天気となりました。

出発のバスの遅れなど若干のトラブルはありましたが、十時には鶴岡八幡宮に到着し、赤池誠章参議院議



員と合流。正式参拝のあと社務所で湯茶の接待や彌宜さんの御挨拶・御説明を頂くなどお忙しい中、大変なご接待を頂き、有意義な研修会となりました。改めてお礼申し上げます。

又バスの中では、赤池議員から国会報告を初め、政界での裏話などのお話も伺えました。高齢で足の悪い方も見受けられましたが、参加者各位のご協力を頂き、予定通り無事に峡南各地に帰着致しました。

## 峡中支部

### 研修旅行

支部長 齋藤 實

峡中支部研修旅行が去る三月十七日に亀戸天神社・スカイツリーへ四十七人の参加のもと開催された。早朝からの雨も上がり清々しい天気の中、バスにて亀戸天神社に向かう。平成二十四年御鎮座三百五十年祭を終え、落ちついた佇まいの中、正面の大鳥居の中央の社名額に「東宰府天満宮」とあり、当社を開基した九州の太宰府天満宮の神宮であった大鳥居信祐公が偲ばれ東の天神信仰の中核であることを想いながら心字池に架かる二つの太鼓橋を渡る。満開の梅の花を見ながら、藤の花咲

くころ風情のある景色であらうと思わせるまだ芽の固い沢山の藤棚の横を通り全員本殿に向かう。正式参拝後、大鳥居武司宮司様より明暦の大火後、幕府は隅田川以東を拡充し江戸に組み入れ、江戸の鬼門に当たる所に將軍徳川家綱に寄進を賜り寛文元年に御鎮座し現在に至るなどの歴史を伺う。多くの祭礼の中で太宰府と同様一月の鸞替神事が有名で木彫りの鸞を持参し新しい鸞に替える。これまでの悪い事が「うそ」になり一年の幸運を得る神事で多くの人で賑わうとのこと。四季折々の花が咲き、常に多くの参拝者の心を和らげる心配りが見られた。亀戸天神社を後にし、昼食後スカイツリーへ、三年前の竣工時と違い混雑状況も緩和され外国人が多く目立った。親睦と楽しく有意義な研修旅行を無事終え帰途について。

## 南都留支部

### “がんばれ東北の旅”

支部長 渡邊 主計

南都留支部、南都留神社総代会合同の研修旅行が、三月十二日より二泊三日で行われた。震災復興五年目に入る“がんばれ東北の旅”である。バス五台、

百九十三名の参加を得て、厳肅に又、賑やかな楽しい旅行となった。



初、日早朝、南都留各地より中央道談合坂SAに集結し、仙台、大崎八幡宮(正式参拝)をした。安土桃山時代の華麗な我国唯一の遺構として国宝建造物の御社殿は、伊達家の威風と当時の絢爛たる息吹きを感じた。奥州三名湯、鳴子温泉にて泊。

二日目は、世界遺産毛越寺、中尊寺等参観後、気仙沼から南三陸温泉へと移動した。夜の宴会は二晩共、各バス選出のレベルの高い芸人、歌手、舞踊等記憶に残る楽しい大宴会であった。三日目は、南三陸被災地を語部さんの案内で回った。復興五年目に入るも、遅滞しており時間がかかる惨状である。参加者一同、鎮魂の黙禱をした。次いで、陸奥国一之宮・鹽竈、志波彦両神社を正式参拝。広大な神域を清々しく参観し、早春の東北路より帰路について。

# 祭典を斎行して

## 針供養祭

稲積神社 権禰宜

土 肥 東 宮

凍付く寒さの二月八日、当神社に祀る針供養塔の御前で山梨県和服裁縫組合、日本和裁士会山梨支部の方々が参列し針供養祭が斎行されました。

針供養祭は本年度で五十年目を迎え、昭和四十五年十月八日には針供養塔も建立されました。

昔の女性にとり生活に欠かせない道具である針を休ませ、日頃お世話になっていている針に感謝し、供養と裁縫の上達も祈る神事で、針に対し最後は柔らかい所で休んでくださいとの意も込め柔らかい蒟蒻に刺して針を供養します。

また、折れた針を持参し針塚にも納めます。

二十年程前は、境内に溢れんばかりの参列者でした



が近年は減りつつあります。和裁のみならず針を手にする事、針のような小さな物にも感謝をし、物を大切にする心は日本の文化です。事始めの二月八日、寒い中でのお祭ですが、針への感謝と上達を願う針供養祭にお参りください。

## お文珠さん

表門神社 宮司

市 川 行 治



表門神社は、孝霊天皇二年の創建と伝えられ、白河天皇の奉納と伝えられる文珠菩薩画像を奉祀している

ため『お文珠さん』と言われる親しまれてきました。

旧暦十一月の一之酉の日に行うため一之酉の祭典といえます。

前日の雪かき、神楽殿の準備等神楽師を中心に、責任役員総代の協力のもと例年以上の準備作業となりました。

祭典当日は、天気も良く、太々神楽や浦安の舞の奉仕等氏子の皆さんのご奉仕を頂くなか、参拝者も多く、NPO法人の協力を得て露店も多数出店するなど賑わいを見せていました。

当日は『文珠書道展並びに表彰式』も開催され県内の各学校から千五百点余の作品が展示された中から、『文珠大賞』を初め知事賞などが贈られました。祭典奉仕を通じて、神楽師や浦安の舞の奉仕者など祭典奉仕の氏子が少なくなる中で、どのようにして伝統を受け継ぎ次の世代により良い形で引き継いで行くか、峡南の何処のお社でも共通の悩みを改めて考えさせられたところです。

## 山宮神幸祭

浅間神社撰社山宮神社 宮司

古 屋 真 弘

三月十五日峡東地方の春の訪れを告げる山宮神幸祭が行われました。

甲斐國一宮浅間神社の撰社である山宮神社（浅間神社の東南二、三キロの山中）に浅間神社のご祭神（木花開耶姫命）が、お父さん（大山社命）、ご主人

（瓊々杵命）の元へ里帰りするお祭りと言われています。同時に、春の農耕をはじめめるにあたり、山から新しい神様の力をお迎えする神事とも言われています。当日は午前十時より浅間神社において祭典、十一時の神輿は一路山宮神社に向かって山宮神社の宮元である石区の総代の手により担がれ渡御します。道中、石区内の安全祈願を行い、石区内を流れる京戸川の河原にて水防祈願祭を行います。そこから神輿は山道に入り、険しい山道をのぼり山宮神社に至ります。ここで、ご祭神は山宮神社本殿にお遷りになり、祭儀が行われます。神事のあとは一路浅間神社に戻り、午後四時頃には終了します。

## 例大祭

「大神幸祭」を前にして山宮より神迎えをしての厳粛な祭儀であります。



# 今後の予定

## ○第十七回 公開憲法フォーラム

「憲法改正、待たなし！」

全国一斉同時中継

神道政治連盟山梨県本部並びに日本会議山梨県本部では、左記により東京で開催される「公開 憲法フォーラム」の会場をネットですつなぎ、インターネット中継を行います。

### 一、日時

平成二十七年五月三日(日)

十三時三十分～十五時三十分

### 一、会場

山梨県神社庁

### 一、主催

民間憲法臨調、美しい日本の憲法をつくる国民の会

## ○第四回神社検定(神道文化検定)

神社検定は神社が好きな方、日本をもっと知りたい方のための検定です。毎年テーマを変えて行われる神社検定は神社本庁監修のもと、より多くの方々に神道や神社についての正しい知識を学んでいただく検定です。

### 一、日時

平成二十七年六月二十一日(日)

【参級】 午後一時～午後二時三十分

【式級】 【壹級】

午後三時三十分～午後五時

### 一、場所

山梨県神社庁

一、受験資格

制限はございません。参級と式級は併願可能です。

壹級は式級合格者のみ受験可能です。

## 表紙写真説明

玉諸神社は、景行天皇の御代に、現在地の北方の山上に日本武尊の手植された玉杉の地が元宮とされている。甲斐の国、三宮である。古来より一の宮浅間神社、二の宮美和神社と共に龍王の三社神社に渡御し、川除神事、水防祈願の神事にあたり前の二社は、現在の形と同じ神輿の形で行列を成していた。

玉諸神社だけは、紙垂で飾り付けられた「ほんぼこさん」と呼ばれる擬宝珠をつけた笠状のものを馬の鞍に載せる隊列であった。外観は笠状であるが中には通常の神輿と同じく神霊の宿る御船代が収まる形となっている。形こそ違うが機能としては神輿と同じ役割を備えている。

名称の由来も口伝のものであり文字の形で神社由緒にも残されていないが、おみゆきさんの絵図に描かれたままの姿が伝えられている。平成二十七年はその姿の再現をすべく、馬の背に杜宝の鞍を着け江戸期末の姿に復した「ほんぼこさん」で龍王に渡御し国中の平安を祈る先人の心を広く伝えたいと思う。

### 一、合格基準

参級・式級・壹級とも一〇〇問中

七〇問以上の正解

一、申込期間

平成二十七年五月十四日(木) まで

一、受験料

【参級】四、九〇〇円

【式級】五、九〇〇円

【壹級】六、九〇〇円

参級・式級併願割引九、七〇〇円

お問い合わせ先

神社検定事務局

〇三十三三三三三四八〇八

## 祭典日程

4・25	勝山富士御室浅間神社春季大祭(はな祭り) 大月市猿橋八幡神社例祭	6・30	穴切大神社夏越大祓 甲府市宮前八幡神社みそぎ祭 甲府市東光寺山八幡神社みそぎ祭 酒折宮夏越大祓
4・29	山縣神社神徳顕彰祭 北杜市高根町長沢船形神社例大祭(春) 北杜市高根町熱那神社春季例祭 勝山富士御室浅間神社流鏝馬祭 大月市駒橋三嶋神社春祭 御岳町金櫻神社桜まつり(5月5日)	6・27	甲府市中央甲斐祭神社大祓祭
5・2	稲積神社例大祭「正木祭」(5日)	7・1	北口本宮富士浅間神社富士山開山祭 富士山小御獄神社富士山夏開山祭 身延町帯金八幡大神社祇園祭
5・3	南アルプス市高尾穂見神社春例祭 忍草浅間神社例祭(春季大祭) 甲府市宮原宇波刀神社春例祭	7・5	山梨市下栗原大宮五所大神水防祭 甲府市住吉神社夏季例祭・田植祭 南巨摩郡南部町八幡神社夏季例祭
5・5	山梨市下石森山梨岡神社つじ祭 北口本宮富士浅間神社初申祭 都留市石船神社春祭 北杜市長坂町建岡神社春季例大祭	7・7	都留市田野倉三嶋神社午頭天王祭 市川三郷町宮原浅間神社祇園祭(夏祭) 甲斐市島上条八幡神社祇園祭
5・9	北杜市大泉町逸見神社例大祭	7・11	大嶽山那賀郡神社甘酒祭
5・10	甲斐市富竹新田神明神社例祭	7・12	大月市葛野御獄神社例大祭 大月市七保町下和田春日神社例大祭 市川三郷町城山神社例祭(夏祭)
5・17	下部熊野大神社春季例大祭	7・18	甲斐市西八幡大神社茅輪祭
5・23	玉諸神社梅之折枝祭	7・19	甲斐市西八幡大神社茅輪祭
6・4	甲斐国一宮浅間神社梅折枝神事	7・20	甲斐市西八幡大神社茅輪祭
6・7	稲積神社お田植祭		